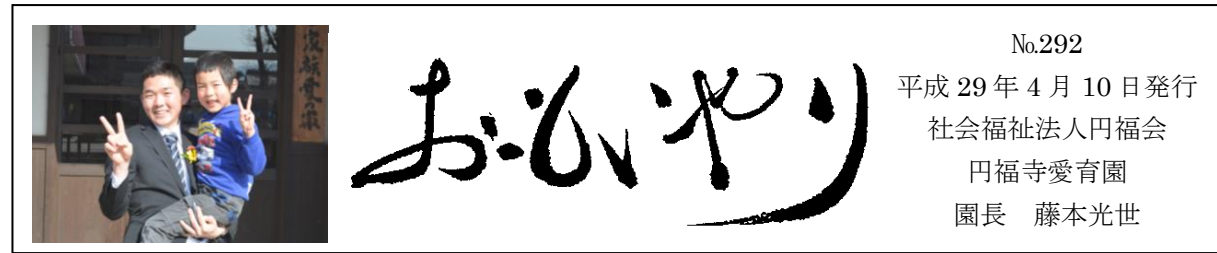


卒園式特集号です。卒園する大好きなお兄ちゃんに抱かれて。



## 卒園式

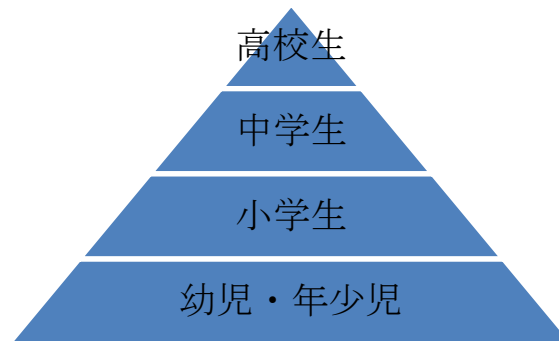
園長 藤本光世

今年も卒園式を終えて、一人の卒園生を送り出すことができました。たった一人の卒園生でした。当園では野球漬けの二年半を過ごしました。朝早くから夜遅くまで、野球にかける取り組みは立派でした。そして、野球で鍛えた心も立派でした。愛育園の職員も彼を応援していました。朝早く登校する彼のために、調理の先生は手作りの朝ご飯を食べて行ってもらおうと、4時台には出勤してくださいました。ありがたいです。その期待に応えようと彼も頑張りました。

夏の大会が終わり、愛育園の子どもたちと一緒に生活になりました。彼は、银杏拾いや庫裡の引っ越しの手伝いなど、先頭を切って働いてくれました。行事の準備や後片付けもいつも誰よりも働いていました。仕事が任せられました。ある時、トイレのスリッパを揃えている姿を見ました。小さな子どもが乱したスリッパを、だれにも見つからないように揃えていました。偉いなあと思いながら、私も見つからないようにその場を離れました。

児童養護施設は、他人同士の集団生活ですから、子どもたちの力関係が力のピラミッドを作ります。体格の差は歴然としています。高校生が威張り散らす、下の子をいじめる。下の子は、上の子にいじめられないように、いつも、そればかり考えている。そのような集団は、子どもたちにとって、安心安全な場ではありません。だから、下の子はいじめてしまい、大きくなったら小さな子がいじめてやろうと、手ぐすね引いて待っています。だから、力のピラミッドは延々と続くのです。これが児童養護施設の実態でした。私は、生まれた時から児童養護施設で育っていますから、このことが実によくわかります。

卒園したT君は違いました。小さな子を大切にしました。一番小さな子の手をいつも引いてやっていた。ホームページでお正月の元旦の写真をみてください。初詣の後で小さな子の手を引いて帰るのが彼です。だから、小さな子は彼を慕って、卒園式では泣いていました。



上の子がこのようだと、下の子は伸び伸びと明るくとても良い雰囲気です。あおぞらホームの子どもたちの明るさと仲の良さを見て驚きました。仲良くテレビを囲んでいる姿を見て、彼の良い影響が表れていると思いました。だから、卒園式では、彼の応援を中高生の男の子がやり、胴上げもやったのだと思います。

こんなにも好影響を残してくれた彼は見事だと思いました。

卒園すると、一人で生きて行かなければなりません。これまで、ほとんどの卒園生は、卒園後に崩れてしまっていました。髪の毛は茶髪になり、せっかく勤めた会社を辞め、住所すら分からなくなっていました。もちろん、そんな姿では園に帰ってくることはできません。

私たちは、しっかりした心を持ち、卒園しても心が揺らぐずに、園にいた時と同じように生活して、世のため人のために尽くすことを生きがいとして生きてくれる子どもを育てようと、願っています。残念ですがこれまではできませんでした。でも、今年の卒園生からその芽が出始めて、今年の彼は太くて大きな芽の第一号になって、愛育園の子どもたちの模範となって、子どもたちの目標となって帰ってきてほしいと願っています。



きっと、そのようになるでしょう。

## お誕生日会 (3/30)

愛育園では、子どもたちのお誕生日の夕食に、誕生日メニューで調理の先生が希望の食事を作って下さり、それをみんなで食べます。とてもおいしいです。



私は、特別に子どもたちと同じように誕生日メニューをねだって、作っていただいています。それも、戸隠蕎麦のお店をしていた先生の特製の「手打ち戸隠蕎麦」。お蕎麦を打って、特別の包丁で切って、茹でてくださいます。茹でたばかりのお蕎麦は、戸隠蕎麦のたれとマッチしてとっても美味しいです。私は、二枚分のお蕎麦でも足りなくて、お代わりしてしまいました。揚げたてのカラッとした天ぷらも最高です。子どもたちも喜んでお代わりしていました。

誕生日会では、将来の夢と今頑張っていることを語ります。最近、愛育園の先生になりたい、保育士さんになりたいと言う子どもが増えました。嬉しいですね。それだけ、先生方に心が満たされて、愛育園の生活も大好きで、希望を持っているのでしょう。

私も、将来の夢を話しました。私の夢は、みんなを幸せにすること。立派な人になってもらって、幸せな人生を過ごしてもらうこと。幸せな人とは、人を幸せにできる人のこと。毎朝「世のため人のため」と言っているように、私もみんなのために一生懸命働きたいと思います。そんな風に話しました。私の話を聴いている子どもたちの視線に圧倒されて、ハッピーバースディを歌ってくれる姿に感動が沸き起こりました。子どもたちみんなが「園長先生大好き」と言っている風でした。言葉に詰まって話せなくなってしまいました。幸せでした。

父がこのような仕事を残してくれて、こんなにも素晴らしい仕事に携わることができて、その上たくさんの感動をもらって、とても幸せです。ありがとう。

#### 平成 28 年度 卒園式

副園長 青谷 幸治

今年の卒園式は、1名の高校3年生を卒園させることができました。3年間硬式野球班に所属し副主将として活躍しました。本人も自分の高校生活を振り返って満足できるものでした。またそれ以上に愛育園に入所して生活できたことを何よりも誇りに思ってくれました。昨年度と違うこと。それは卒園生のTくんが皆のお手本となり、そして皆の憧れになっていたことです。Tくんを中心に児童がまとまっていた一年でした。そんなTくんの卒園式を皆で作上げ、そして送り出したいという気持ちが在園生全員から伝わりました。別れの涙が止まらない素晴らしい卒園式を行うことができました。早速、来年度高校3年生になる子どもたちの顔は引き締まり、「次は自分だ」と頼もしく思えました。



Tくんはセイコーエプソン塩尻事業所に配属されました。塩尻での一人暮らしと仕事に早く慣れて、立派な姿を子どもたちに見せてください。短い期間でしたが、愛育園にきてくれてありがとう。退

職される先生方、子どもたちのためにご尽力いただきありがとうございました。ご来賓の皆様方、お忙しいところ卒園式にご参列いただきありがとうございました。

#### 平成 28 年度 卒園式

あおぞら保育士 富沢正樹

今年度の卒園児童は長野工業高校に通う3年生の男の子、1名でした。高校入学を機に園に入所し、3年間を園で過ごしました。高校では、野球に打ち込む傍ら、学習にも力をいれ、生活面でも規則正しく、3年間頑張り切った子でした。そんな彼は、周りの児童からの人望も厚く、今年の卒園式はとても温かい雰囲気の中で行われました。

前日には、園のみんな、園内を掃除したり、飾りつけをしたり、協力しあって卒園式の準備をしました。歌の発表の練習もみんな心を込めて一生懸命に歌っている姿があり、それだけで感動的な気持ちになりました。

当日、式の前には、今年度の愛育園の一年間の歩みを、スライドで見ました。数多くの行事の中に、卒園生のI君もたくさん参加している姿が写真で映し出されており、この一年間が本当に充実した一年間だったことを改めて感じる時間になりました。

式が始まり、来賓の方や、担任の先生からお祝いや激励の言葉をいただきました。I君も3年間の思い出、また、園に対する感謝をたくさん伝えてくれました。そして、最後にはサプライズとして、2か月前から、I君がこっそり作ってくれた木工細工のテレビ台・脚立・棚を卒園記念品として贈呈してくれました。

また、在園児童も応援団を組み、はち切れそうなくらい声を張り上げてI君にエールを送る姿がありました。



あっという間に式は進行していき、最後には、在園児童のみんなが花道を作り、胴上げして最後の送り出しをしました。

I君が3年間、ひたむきに頑張ってきたことが、卒園式の1日に凝縮されたような日でした。

そんなI君を見ていて、私自身は、これから周りからの人望が厚く、お別れの時には心の込めた送り出しをしてもらえるような卒園生を養育していきたいと強く感じました。

#### 卒園式

主任保育士 石崎早織

1年経つのは本当に早く、あっという間に卒園式を迎える季節となりました。先日にはお天気に



も恵まれ、晴天の中円福寺愛育園の卒園式が行われました。

今年卒園を迎えたI君ですが、愛育園では3年間生活をしました。高校生活は野球に熱中し、朝早くから夜遅くまで本当に真面目に毎日部活に取り組んでいました。いつもそんな姿を見て、高校生なのにすごいなと私自身もI君の姿を見ながら学ぶことがありました。部活を引退してからは園で過ごす時間も増え、今までゆっくり話をしたことがありませんでしたが、行事を通してたくさん話をすることが出来ました。話をするまでは無口、真面目というイメージが強かったI君ですが、話をするたびに、話すことが好きな事や、自分の事だけではなく、周りのみんなの事をよく見ながら動いてくれている事、まごころホームの小学生にも優しいお兄さんとして、面倒を見てくれている事など、I君の今まで知らなかった姿をたくさん見る事が出来ました。特に印象的だったのは雪合戦の大会と一緒に出場した時の事です。初めての大会出場で私が監督を務めたのですが、大会前



日のミーティングで私が選手たちに「気持ちで負けない」と言った言葉がI君には引っかかったようで、「そんなことは言わないで欲しい」と言ってきました。この言葉の何がいけなかったのか、言われた時はわかりませんでした。その後青谷先生がI君と話をしてくれ、I君のこの大会に対する熱い、強い気持ちが誰よりもあった事がわかりました。やるからには絶対勝ちたい。負けたくない。そう思っていたからこそ私の発言が弱腰に見えたのかもしれない。でも青谷先生が、勝ちだけにこだわるだけではなくチームの心を一つにする中心としてI君の存在が大切な事など話をしていただき、大会当日は今までにないくらい、チームが一つとなり全力で戦う事が出来ました。

3年間という短い時間でしたが、思い出を話せばまだまだあります。それは子ども達も一緒だと思います。I君の姿を見て学ぶ中高生も多かったと思います。それだけみんなのお手本になるよう頑張ってくれたI君。ありがとう！！4月からは社会人1年目。愛育園で学んだことを忘れず立派な大人になって下さい。

そしてこの卒園式を迎えるにあたり、子ども達もたくさん協力してくれました。ステージに飾る壁面や、会場の設置、そして毎年卒園生に送る合唱。どれもみんなの気持ちがとても詰まっっていて、素晴らしい卒園式になりました。また今年は卒園生が1名でしたが、たくさんの来賓の方々もお越し下さりありがとうございました。高校生の女の子が、来賓の人数を見て、こんなにたくさんの方が愛育園を支えてくれているんだ・・・。と言っていました。本当にその通りです。1年間無事過

ごせたのもたくさんの方の支えや、応援があったからだと思います。29年度も28年度に負けないうらい、子ども達と濃い1年を過ごしていきたいと思っています。

## 卒園式

まごころ保育士 渡邊梓

今年度最後の行事、卒園式が3月20日に行われました。今年の卒園生は1人、あおぞらの児童だったので、卒園に向けてバタバタとすることもなく、卒園の日を迎えました。

卒園生のI君は、子ども達の憧れでした。自分の為にどこまでも一生懸命になれる人であり、仲間の為にどこまでも熱くなれる人でした。そんなI君の卒園だからか、子ども達も準備に力が入ります。毎日の歌練習も、誰一人として嫌な顔をする子どもはいませんでした。むしろ、もっと歌いたいという様子でした。式の為に練習した曲は4曲ですが、「本番は歌詞カードなしで」と言われた時、正直難しいのではないかと、思いました。しかし、歌っている時の顔が恐ろしくなってしまう程みんな一生懸命に歌っていたのでしょ。日に日に、歌詞カードを見ないで歌う子どもが増えてきました。「みんなの足を引っ張ることはできない…」と、私も通勤中の車内で練習しました。みんな喉が痛くなるほどに声を出して歌いました。これほどまでに子ども達が頑張るのは、やはりI君の人柄でしょう。I君の為に何かしたい、I君の様に何事にも一生懸命になりたい、I君の為に精一杯歌いたい、こう感じたのではないのでしょうか。



卒園式はとても感動的でした。頑張りは無駄にならないこと、必ず見ていてくれる人がいること、こんなにも支えてくれる人がいること、参加した人がみんな感じられた卒園式だったのではないのでしょうか。来年度はまごころからも卒園生が出ます。まごころ職員として精一杯見送りたいと強く思いました。

## 卒園式

調理員 宮沢 まき江

とうとうこの日がやって来てしまったのだ！・・・

お祝いの気持ちとお別れの寂しさとても複雑な気持ちの中、当日を迎えました。

今年の卒園児童は一人でしたが、心温まる、そして心に残る素晴らしい卒園式が行われました。

私は調理で2年4ヶ月T君を見守らせて頂きました。彼の野球一筋の頑張りに私達調理に出来ることは、どんなに朝早くても、あつあつの味噌汁で朝食を食べてもらい、夜は遅くに帰るので、充分にお腹を満たせる様おかわり用を用意しておくことでした。



T君はこちらがそうしてあげたい気持ちになる様なども優しく、挨拶がきちんとできる頑張り屋のすばらしい児童でした。

当日、在園児へのとても心がこもった作品3点の贈り物がありました。ホームの先生にお聞きすると、材料はバイト代から買い、子ども達のいないときを利用しコツコツと一枚の板から全てを作り上げ、一年生に作った棚は、けがをしない様にと全てヤスリできれいに削り、色を塗り仕上げたとの事にただただ「すごい」の言葉しかありませんでした。このままの気持ちを忘れることなく、精一杯社会人として立派になってほしいと願うばかりです。

そして、このような先輩を見ている在園児も前日からの準備と当日もとても機敏に動いている姿を見て感心させられました。

皆様、ありがとうございました。

#### 在園児童代表挨拶

高1 A.H

まず初めに、Iくん、ご卒業おめでとうございます。

I君は高校1年生の時に愛育園にきましたね。その時、ぼくはまだ中学2年生でした。

その頃、Iくんは、野球班の活動で、朝早く園を出て、夜遅く帰ってくるという生活を毎日続けていて、ほとんど園にいなかったの、ぼくは、話をしたりする事もほとんどありませんでした。

でも、どんなに遅く帰ってきても、自分で弁当箱を洗ったり、次の日も誰よりも早く起きて朝のお参りに向かう姿を見ていて、すごいなあと思っていました。

今年の一年間は、同じ長野工業高校に通ったり、野球班を引退してからは、園の行事も一緒に参加したりできたので、たくさん時間を一緒に過ごして、多くの思い出があります。

ぼくの中で、どんなことが思い出に残っているかと言うと、Iくんから、勇気や力をもらったり、励ましてくれた時の事が一番心に残っています。

愛育園運動会の時には、マラソンや短距離走の練習で、誰にも負けないという走りに勇気もらい、ぼくも頑張る事が出来ました。



練習の時から、Iくんの背中を目指して走っていたら、本番では、智朗くんには勝てなかったけど、それまでずっと勝てなかった2位の人を追い抜くことができました。

Iくんという目標が無ければ、そこまで頑張れなかったと思います。ぼくだけでなく、Iくんの何気ない行動や言葉に勇気と力をもらった人はたくさんいると思います。

今年、園で初めて参加した、雪合戦の大会でも、ぼくに何度も投げ方のアドバイスをくれたり、練習に付き合ってくれました。誰よりも仲間想いで、仲間のために行動できるIくんは、ぼくを何度もやる気にさせてくれました。

そんなIくんと、今日でお別れとなってしまうのはとてもさみしいですが、自分で決めた事は意地でも曲げず、何が何でもやり通す力や、落ち込んでいる人がいれば、不自然なくらい明るく元気づけてくれる優しい心でどんな事も乗り越えられると信じています。

ぼく自身も、Iくんの様に自分で決めた事は意地でもやり通したいと思います。そして、これからは、愛育園の皆の一番先頭を走っていきます。

Iくん、3年間ありがとうございました。4月から頑張ってください。

#### 卒園児童挨拶

高3 T.I

#### かけがえのない3年間

私は、ちょうど3年前のこの時期に高校野球をやりたくて入園しました。園に入る時、青谷先生に一生懸命やっている姿を年下の子にみせてやってほしいと言われたのを覚えています。私はその時、期待に応えようと心に決めました。高校野球一年目は一番下の学年という事もあり、練習の補助や応援練習が主な内容でした。帰ってくる時間は10時を過ぎるのが当たり前で、11時を過ぎる事もありました。それでも園の先生は、「お帰り」「お疲れ様」と暖かい声をかけてくれました。すごく心の支えになりました。練習の補助や応援練習の合間をみて地道に自分の練習を積み重ねた結果が実を結び、一年の時の秋季大会からベンチメンバーに選ばれました。北信予選2回戦までは、練習試合、予備選を含め代打打率10割、守備ではミスなしの最高の結果を出し続けていました。まだ負ける怖さなど知らず高校野球を甘く見ていました。3回戦の相手は長野商業でした。3回戦のある数日前に、その時の監督が秋季大会を最後に引退するという話を聞きました。チームの中で、3回戦も勝って監督を県大





会に連れて行こうと目標をたてました。当日、試合の中盤まで大差で負けていましたが、終盤で一気に逆転しました。私は6回から守備に出ました。6, 7, 8回といつも通りの安定したプレーをしていました。しかし、最終回に守れば勝ちという場面で今までにないプレッシャーを感じました。その時ふとスタンドを見上げてしまいました。自分が選ばれた事でベンチ入りできなかった先輩がいて、もし負けたらその先輩は監督と試合をする事ができない。今までそんな事を考えた事なかったのに、負ける事が許されない場面に立たされ時ついで弱気になってしまいました。その隙を突くかのように私の所へ打球が転がってきました。なんの変哲もない普通のゴロ。なのに私はエラーをしてしまいました。心の中では切り換えようと思っていたのに、体は動かず続けてエラーをしました。頭の中が真っ白になって、今自分が何をしているのか分からない程混乱していました。スタンドや相手ベンチからの野次りの声。監督は懸命に自分に向かって何か言っているのに、何も聞こえない。グラウンドにはチームの仲間がいるはずなのに、自分一人しかないような感覚。息苦しくて胸が痛い。そんな時、誰かがタイムを取ってくれました。落ち着く為にピッチャーとキャッチボールをしろと言われました。サードからピッチャーに向かって思いっきりボールを投げたつもりでした。けどボールは転がってピッチャーも所へいきました。心はボロボロで体は思うように動かず、あとひとつのアウトが遠いものを感じました。最後は内野ゴロでアウトにし、チームは勝つことが出来ました。学校に帰った後、班室でみんなが喜んで騒いでいる中、私はグラウンドの端で大泣きしました。野球の怖さを知り、自分の弱さを知り、情けなくて、悔しくて、色々な感情がありました。その日以降練習に出るのも嫌になりました。チームの代表として試合に出たのに、無様な姿をさらしてしまい正直練習にでるのが恥ずかしかったです。野球なんかやめてしまいたいと思っていたそんな時、園にいるある小学生が無邪気な笑顔で「今日勝った?」「ヒット打った?」と聞いてきました。その笑顔を見て、最初の頃に先生に言われた事を思いだし立ち直ることができました。それからは、チームの信頼を取戻し、自分を強くする為に日常生活を大事にしました。野球部だから勉強は出来なくてもしょうがないと言わない様に成績を上げたり、練習が休みの日でも毎日学校に行き自主練習の前にグラウンドの周りの草取りやゴミ拾いをしました。それでも一度失った信頼を取り戻すのは難しく、2年生の春、夏とベンチ入りする事も出来ませんでした。3年生の最後の大会が終わり、私たちが最上級生として新チームがスタートしました。私は監督の推薦があって副キャプテンになりました。新チームになって臨む初めての大会では二回戦敗退となりました。技術は確実に高くなっているのに、心が一年の秋から成長していないと実感しました。その試合で上手いかなかった事を応援しに来てくれた園の人のせいにしてしまったのを今でも後悔しています。もっと心を強くしたいと思い青谷先生に相談しました。青谷先生は誰よりも早くお参りにこいと言いました。何の根拠もない事だったけど、毎日必死に続けました。そしてこの冬は肉体的にも精神的にもかなり追い込みました。冬が明け、迎えた春の大会では、県大会出場という結果を出す事が出来ました。2年生の秋までは、応援する声を聞くと緊張してしまっていたのが、その時は力に変えて思い切ったプレー

一をすることができました。春に結果を残したチームは、勢いに乗っていい状態で夏を迎えました。最後の大会の一回戦は、ほぼ無名校との試合でした。チームのみんなは決して油断していた訳ではありませんでした。なのに、まさかの一回戦敗退となってしまいました。あの日の試合は忘れることができません。三塁線を抜かれた打球も、あと少し手を伸ばせば捕れたのに。チャンスの場面で思い切り振り抜いていたら結果は変わっていたかも知れない。私は勝敗を分ける場面で何度も失敗してしまいました。なので余計に立ち直るのに時間がかかってしまいました。そんな時、園のみんなは試合の事について触れず優しく見守ってくれ、そんな気遣いがとてもありがたかったです。野球を引退してからは、園の行事に積極的に参加するようになりました。初参加の行事ばかりだったので新鮮でとても楽しかったです。キャンプでは普段なら絶対やらないような役もやりました。ぎこちない演技になってしまったけど笑ってくれる人もいて嬉しかったです。夜には普段話す事のないまごころの先生の話の聞けたり、沢山の褒め言葉をもらいました。自分の長所を見つけるいいきっかけになりました。愛育園運動会では、何度も熱くなってしまう場面がありました。今となっては、笑える思い出話となっています。ディズニーランドでは予想していた以上に多くのアトラクションを楽しむ事が出来ました。楽しみ過ぎてヘトヘトになったのは初めてでした。他にも愛育園祭やスキー合宿、雪合戦など思い出に残る行事がたくさんありました。愛育園で過ごした3年間はかけがえない思い出となりました。入所したばかりの頃は、人との関わりは最小限にして今まで通り一人で頑張ろうと思っていました。でも実際は、1人では何もできなくて壁にぶつかる度に心が折れそうになりました。そんな時はいつだって支えてくれる存在がありました。あおぞらホームの中高生にはお世話になりました。S君、何に対しても一生懸命になれることはとても素晴らしいと思います。高校テニスでは目標を高くして頑張ってください。R君へ。中一の頃とは見違えるほどたくましくなりましたね。高校野球は更に成長させていく良い舞台です。辛い事も多いけれど乗り越えられるように頑張ってください。応援しています。S君とは、くだらない事で良くケンカしましたね。今となっては良い思い出です。これからは、最上級生として皆を引っ張って行けるように頑張ってください。いつもニコニコしているH君。今年は最後の大会や受験があって大変かもしれませんが、笑顔忘れず頑張ってください。S君、今年はずいぶん運転免許の試験がありますね。毎日積み重ねてきたもの



はウソをつきません。一発合格目指してがんばってください。Y君、最近良くやっている将棋では、やる度に強くなっていたね。根気よくやる力はあるから今やっている柔道も上を目指してがんばってください。最後にはA君。困っている人がいたら手を差し出せるやさしい心の持ち主です。これからもその心を大事にして下さい。あおぞらの小学生へ。皆の笑顔には何度も助けられました。これからも笑顔あふれる一階にして下さい。まごころの皆さんへ。大会の時に、応援しに来てくれてありがとう。会場が騒がしい中でも、応援の声は届いていました。本当に児童のみんなには色々な場面で支えられました。そんな素晴らしい力のある皆さんにお願いがあります。どんな困難な夢でも、挑戦してほしいと言う事です。夢なんてどんなに努力したって叶わない時だってあります。実際私も甲子園に行くという夢はかないませんでした。でも、甲子園を目指して頑張ってきた過程があるから今の自分があると思います。後先の結果を恐れず、前向きに挑戦して下さい。今の愛育園の先生達は夢に向かって挑戦する事を全力でサポートしてくれます。だから愛育園の先生の事を信じて夢に向かって挑戦して下さい。私は先輩として、みなさんの目標となれるように全力で頑張ります。

あおぞらの先生方には色々なわがまま付き合ってもらいます。夜遅くに帰ってきてティーバックティンクをやりたと言った時も、嫌な顔一つせず手伝ってくれた事感謝しています。特に富沢先生とは、夜遅くまで話をした日もありました。心配事を自分の事のように考え、真剣になってくれてとても嬉しかったです。昔から知っていて、いざとなったら頼れる青谷先生には沢山助言をいただきました。これからも困った事があたら相談しに行きたいです。調理の先生は、本当に細かい所まで気にかけてくれました。どんな注文も真剣に聞いてくれて嬉しかったです。何気ない相談でも親身になって聞いてくれた石崎先生。これからも、愛育園のお母さんの存在でいてください。そして、野球をやることに全力で後押ししてくれた園長先生。最後の夏、勝って恩返しする事は出来なかったけど、園長先生の教えを支えに頑張っていく事で恩返しできるようにしたいです。



最後になりますが、愛育園で過ごした3年間は一生の宝物です。この3年間を支え続けてくれた園長先生、ホームの先生方、児童のみんな、調理の先生、そして見えない所で支援してくれた方々に心から感謝し、卒園の言葉とさせて頂きます。本当にありがとうございました。

### 受験を通して学んだこと

私が今一番思っていることは、先生の話をもっと素直に聞いていればという後悔です。もちろん今までにないくらいの量を毎日毎日勉強し続け辛かった、よく頑張ったなという気持ちもありま

す。しかし正直に言えば頑張ったのは冬休みからであったし、先生の話をもっと素直に聞けなかったせいで、夏休みを無駄にしたこともあります。言う事を聞いた方がいいとわかっているのに、自分の納得のいくやり方でやってしまい、結局冬休み慌ててやることになりました。その時もっと早く気づいていればなと後悔をしました。また、これは勉強をやった感想にならないかもしれませんが、勉強がうまくいけなくなると、勝手にイライラして周囲に迷惑をかける事がありました。そして先生に怒られることも多々ありました。でも今思えばこれは先生の話をもっと素直に聞いていればよかったというだけの話だったなと受験勉強を通して気づかされたことです。それから私にはもう一つ気づかされたことがあります。後悔によって気づいたことのように、喜びによって気づいたこともありました。それは合格をしたということの他に一緒に喜んでくれる人がいたということです。私の受験番号を見つけた時はとっても嬉しかったです。でも私はまだ全然合格したという実感がわなくて、小さな喜びでした。しかし、園長先生、青谷先生、石崎先生をはじめ、先生方やみんなは私よりも喜んでくれていました。それが私にとっては、とっても大きな喜びでした。なぜなら後悔したこと所に書いたように、皆には迷惑をかけ、喧嘩もして、青谷先生や、石崎先生を怒らせることも多くありました。それでも喜んでくれたことに本当に感謝しています。だから私は高校生になっても受験勉強を通して気づかされた2つの事に注意し、たった3年間という高校生活を後悔しないように、そして一緒に喜んでくれた人たちの事を忘れず、今後は私が一緒に喜んであげられる人になれるよう、今後がんばりたいと思います。(R・A)

### 卒園式

### まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

3月20日、今年度最後の行事、卒園式が行われました。今年の卒園生I君は、あおぞらホームだったので、話をしたり、関わったりする時間は少なかったのですが、とにかく野球一筋で、自分にストイックで、小さい子達の憧れのお兄さん、という印象があります。傍で支え、見守ってきた先生方の話を聞けば、私の印象通りで、3年間本当に一生懸命やってきたことがよくわかりました。卒園式での“卒園生 お別れの言葉”でI君がお話していましたが、「青谷先生に、小さい子達に頑張る姿を見せてほしい、と言われ、今日まで頑張ってきた」という言葉を聞いて、自分の野球のことだけでなく、愛育園の子ども達のこととも考え、引っ張って来てくれたのだな、立派だな、と改めて感じました。また、あおぞらの中高生がI君に向けて、エールを送っている姿を見て、I君はみんなから愛されているのだな、尊敬されているのだな、ということも感じました。この愛育園で過ごした3年間に胸に、社会に出ても頑張りたいな、と思います！

また、この日のために、毎日合唱の練習をしたり、ステージバックの壁面を作ったり、会場の準備をしたりと、子どもも職員も一緒になって、「I君を気持ち良く送り出したい！」という一心で準備を進めてきました。卒園式は全員の心がこもった素敵な式になりました。平成28年度の良い締めくくりが出来た様に思います。平成29年度も、愛育園のみんなと素敵な1年にしたいです。ありがとうございました。